

(石川会長の挨拶)

## 中活基本計画、期間終了に市民の評価

本日は、構成員の皆様方には、何かと御多用中のところ、当協議会総会に御出席を賜り、誠に有り難う御座います。

又、日頃より当協議会へのご理解とご協力をいただいている事に対しまして、あらためて厚く御礼申し上げる次第です。

さて、十和田市中心市街地活性化基本計画が平成22年

3月に国の認定を受け、27年3月までの概ね5年の実施期間で、官民ともに、中心市街地活性化事業を集中的に取り組んできたところではありますが、間もなくこの3月末をもって同基本計画が終了いたします。当活性化協議会も平成21年5月の設立以来、基本計画の進捗状況を毎年具体的に市ご当局から報告を受けながら、「活性化事業の適正な協議」ということを主な目的として運営してまいりましたが、結果的には、基本計画に掲載された実質32事業のうち、28事業が完了し、4事業が事業化に至りませんでした。

皆様ご存じの通り、施設整備関係では23年にアートステーショントワダが整備されましたが、その後、周辺の商業コアゾーンに整備を予定した稲生プラザイーストや駒っこモールは、残念ながら整備することができませんでした。また駅前の北地区整備事業も、ユニバースさんによる動きはあったものの、現在のところまだ整備が進められておりません。

しかしながら、昨年10月には中心商店街に市民交流プラザがオープンし、そして先日1月15日には官庁街通りに教育プラザが第1期工事を終了し、暫定オープンしました。結果、市が事業主体となって実施したハード事業は、そのほとんどが完成を見ておりますが、民間が事業主体となったハード事業は、アートステーショントワダのみとなりました。今年度の歩行者自転車通行量調査の結果を見ますと、基本計画の目標値は達成できなかったものの、目標値にかなり近い数値が出ております。要因は一概には決めつけられませんが、アートステーショントワダの影響による部分も大きいものと、今後に期待したいところでもあります。

また、本日、市の説明にも出てくると思いますが、中心市街地活性化についての市民アンケートの結果によれば、「芸術・歴史・文化」や「イベント等の賑わい」、「歩行者の安全性」、「公園や緑」では市民の満足傾向が高いものの、「買い物環境」や「駐車場」、「公共交通」、「高齢者や子どもへの支援」等では不満傾向が高くなっているよ



うです。これは何を意味するか、皆様にも概ね想像がつくところかと思えます。

「地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策」や「日本経済再生に向けた緊急経済対策」など、政府の経済対策は、その効果を広く行き渡らせることを目指しておりますが、地方に於いてはまだまだ、その恩恵が少ない状況にあるように思えます。そんな中で十和田市はアートと商店街による中心市街地活性化を続けてきました。そして今年10月にはB-1グランプリも控えております。十和田市のまちづくりのために皆ががんばっておりますが、まだまだ市民は不満を持つところもあるようです。

このような中でも、十和田市の中心市街地活性化基本計画の実施期間は間もなく終了を迎えますが、その中での市民の評価が今出てきております。

本日の総会は、この基本計画が終了を迎えるに当たり、市がとりまとめた「最終フォローアップの報告」について、協議会として皆様にご意見と評価をお聞きするために開催いたしました。委員並びにオブザーバーの皆様には、毎回、ご足労をお掛けいたしますが、本日はご忌憚のないご意見をいただければ幸いと存じますので、今一度、皆様にご協力をお願い申し上げまして、本日のご挨拶に代えさせていただきます。本日はご出席をいただき誠に有り難うございます。